

三大夫殉節之碑

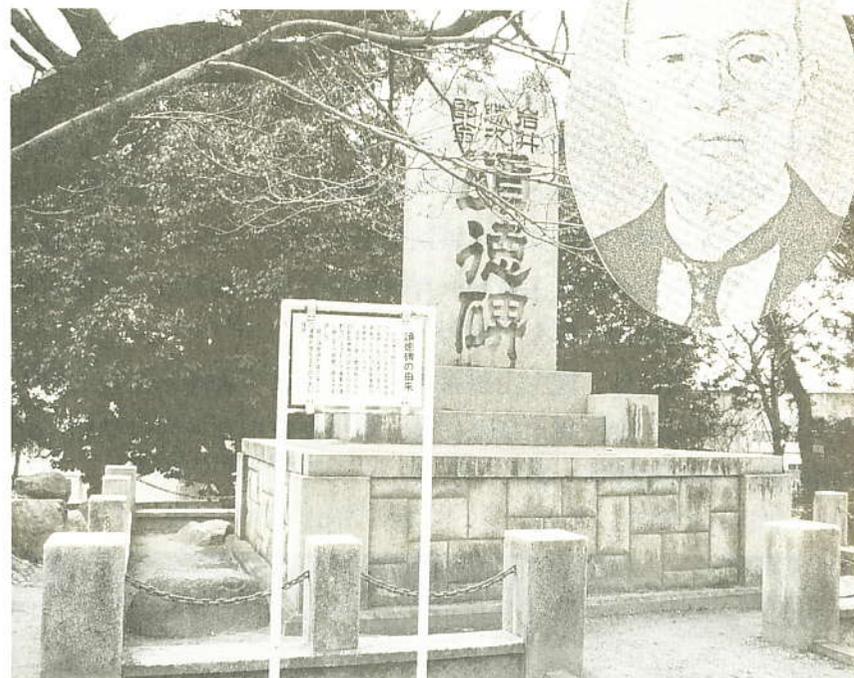
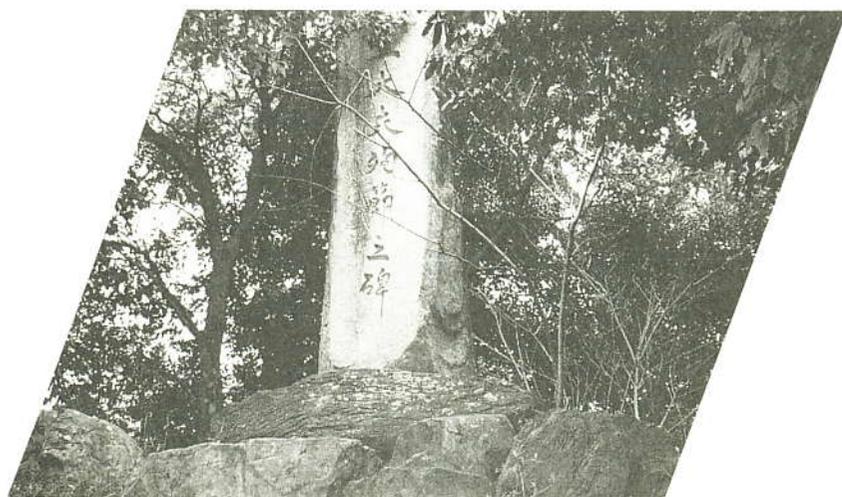
三大夫とは、長州藩の益田親施・国司親相・福原元儼の三家老である。幕末動乱の元治元年蛤御門の変において長州は敗北し、さらに、長州征伐を受けることになった。

藩内は幕府に対する恭順派と主戦派が対立したが、恭順派の勢力が強くなり、その謝罪として蛤御門の変を指揮した三人は切腹を命じられた。

三家老は徳山藩で幽閉され、益田親施は、三番丁の総持院で、国司親相は上御弓丁の澄泉寺で切腹し、福原元儼は徳山藩主元蕃の兄弟に当たるので、岩国に移送されて切腹した。

動物園内の「ひょうたん池」北の丘に自然石の碑がある。これは徳山公園のあった昭和15年に、長州藩を救うために犠牲になり、明治維新の礎となった三家老をたたえて建てられたものである。

毛利元道氏（防府）の筆で「三大夫殉節之碑」と彫っており、皇紀2600年秋建之と記してある。



岩井勝次郎翁頌徳碑

大阪の豪商で株式会社岩井商店の経営者であり、大正5年に徳山に進出し徳山曹達株式会社・徳山鉄板株式会社を相次いで創設し、工業都市徳山発展の基礎を築いた功労者である。

昭和11年末72歳で死去したが、氏の功績をたたえ昭和12年12月21日、遠石三丁目薬師堂上の高地に碑を建てたが、人々の参詣があまりに少ないので、昭和17年徳山公園に移設し、現在も動物園前にそのまま建っている。